新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	多施設連携プラットフォーム (MABB) を基盤にした各種認知症性
	疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステ
	ムの確立

②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者

2022 年 4 月 1 日以降に、本研究プロジェクト(代表: 徳田隆彦 [所属: 下記参照])に参加された方

③概要

認知症性疾患については、先行する研究の結果から 2020 年時点で国内におよそ 602 万人がいると推計されています。近年、アルツハイマー型認知症では、症状の軽い段階(軽度認知障害 [MCI]期)でそれ以上の進行を防いだりするような、予防的治療薬、根本治療薬の誕生が望まれています。しかし、軽度認知障害の有病率について十分な先行する研究はありません。この研究は MCI 期の患者さんを対象に、臨床データや、脳画像バイオマーカーと血液バイオマーカーのデータの集積を行い、バイオマーカーの開発や信頼性などの確認を行って、各種認知症性疾患に対する診断・層別化システムを確立する他、これらを用いて臨床試験※を促進することを目指しています。

※臨床試験:製薬会社などが行う、新薬の安全性・有効性を調べ、厚生労働大臣の承認を得るための臨床研究

④申請番号	_ C2021-0057
⑤研究の目的・意義	第 1 の目的は、MCI のステージにある患者さんに定期的に診察・
	神経心理検査・画像診断検査・採血をさせていただいて経時的な臨
	床データおよび脳画像バイオマーカーと血液バイオマーカーのデ
	ータの集積を行うことです。
	第2の目的は、この研究に参加していただいた患者さんから集めた
	臨床・画像・血液バイオマーカーのデータを解析して、各種の認知
	症を網羅する画像・血液バイオマーカーの開発・検証とそれらを統
	合した各種認知症性疾患に対する包括的な診断・層別化システムを
	開発することです。
	第3の目的は、登録した患者さんと開発したバイオマーカーシステ
	ムを用いて、認知症に対する根本治療薬の臨床試験を促進すること
	です。
⑥研究期間	実施許可承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用	電子カルテに保存されている病歴、血液検査結果、その他の心理
方法(他の機関へ提供される	検査結果、MRI 検査結果を利用します。使用するデータは個人が
場合はその方法を含む。)	特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成
	果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、

	名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありま
	せん。国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構を中心とした
	共同研究として行いますので、試料や情報は研究参加機関で共有
	します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場
	合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表さ
	れることはありません。
⑧利用または提供する情報	病歴、血液検査結果、その他の心理検査結果、MRI 検査結果など
の項目	
⑨利用の範囲	新潟大学·脳研究所·遺伝子機能解析学分野
	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門
	量子医科学研究所 脳機能イメージング研究部(代表施設)
○試料・情報の管理について	•新潟大学•脳研究所•遺伝子機能解析学分野 准教授 宮下 哲典
責任を有する者	•国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命 • 医学部
	門 量子医科学研究所 脳機能イメージング研究部 医長
	徳田 隆彦
⊕お問い合わせ先	所属:新潟大学•脳研究所•遺伝子機能解析学分野
	氏名:宮下 哲典(Miyashita Akinori)
	Tel: 025-227-2344
	E-mail: miyashi2020@bri.niigata-u.ac.jp